新板
絵入

唐土訓蒙図彙

二

へ13
3200
2

門へ 13
320.0
巻 2

唐土真話巻之五

目録

第四回　郭挺之山中に暴雨を避る事
　　附　伝と称し難き恩恵を仰ぎ
　　衣帽を焼乾して自己の志を考る事

第五回　郭挺之礼を厚くして紙筆を要る事
　　始め貧賤中ひそへ籍よも貧乏疎略の者人
　　苦と道て示よ也示奇のすや記録の詩歌

十月一九午

郭挺之山中に暴雨を避る事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

おもいやんとうのうしろにまたまたあしかのくまのかげ
おそれおそれとあるまんなかのかりんおのふたのくまのかげ
ふかいあれきとそとゆるてんぐたちこうてんのとれはるるもうみま
ちまれ鶴のようなるるんぐるのようなめせんやちろかいまも
ばじんなまやざんれんは文のうんまるてんとれなひーしゝ手て遠公
ちまるうれんやきまるのんぐもまるらずんぐのうぐーん
いうんのうまくもんんぐてまんうくるのうくうぐるちるまて
ゆやせてうんまるうぐまて紡績にてにとわてんあわてるのく
のくまるのいるまとれにてのうぐのうにあまぬひすあの元ひ
ゆうりあるのくてすひるにおまとうんぐひまるてまあくゆ
せあんうと高潔てたうとうまくきるうとくくのくて

むすのとおてんとなのひとみ高氏とうたんとてあ縣にあいて新春
ばたうやとうとてくきるうんとうとうとうやるーよ
まんれにてひるのとうるとうくうとくうのまるうるるる山
中にうて遊ちるるんたちまちくれるうあるあるあて遊
ところのくいうとんくんまるまれ和裏にやぶんくあるて
とうれにてのるるくにあるるのやたんくうまるのくやるだるや
ちるるに風ちるてくきくいうるるんくんるんるるる
ぬんうちるどるるるてるあるるるるるるるるるるる
いうてんんんのるるくるるるるるるるるるるるるる
あげてうんとうんてるるるるるるるるるるるるるる
みそまるまるやるれきんるるるるるるるるるるるる

たてまつりたところ、こんなら、ふぶのやきそばをあとで、ぞんぜ
とうてくきそうはとこにてれをんくよくみとまるこれ系天孫
あんに扶花しておらどのれ位ぶそこまうそんれおしてまかせて
世業せにおせにてあのあひあ会うれあきたりておりのの若さ
あよとなるうちと私ふ孫国てはかむうえ公ぶくくれ光ぬも
むすめもてねたてまつれくよびとればあこ子ふ花せいまち地
おぼくいできたりて月全ふとにてくきそうまりあれば巣天うく
一ふうに扶側てはふて風呂を沸ちるあぐこを沸てれてあ表
ゆくきそうまりふ扶記ぜしぐ人地おりてくきそうぐて紙花
分うちあのもでつきてねきそうてれてもあ姫孫遊ふそ分る
布紙とびでーてくきそうぐあきそうぐあきそうぐのの

途にて面こ盗てるれて雑業
ゆるものハ行ひ
ゆん人ハ旅人ゑ
面具も持ぐる
よハ是とす
ぐいう手れ
悦ぶ面

めたるあくとのうるとのちに
ほだあく海長海つきんとのぶりうの
久ゑるとるやどあく荒氏坊孝
一地の持ひとりやすきるうに
荒氏ゑるとびきたりまめ
て鼓ゑるあけどく茶あぐ
ひとおりて持遅ゑのしら和天孫毋ゑ
おのぐとれるこ孝徐眼ひ
鼓孝ゑだのやるふてく
んておのそとゑるのびのの
てすとありぐ近ふゑのてひざ

はしをとりて膳をとりてくはんとすれども
よげしのけしきなんへりうどのくわのう
に例してうくんの家に嫁まねくるよとくめてまんかりの
このとまりまきたりのあるのいくぎりに今夫の幸ひのてきたりをあるはし
てあるひきたりのあるもいろ良あんどせめて十日まで月に行ぶ給へ
三人とくやと思てとどまりにあるのをてくきるくもなりていかるべきてくぜ
いきくこのとまりのよに月もつのて毎月未老ぐてあるにあるまの山ぶの
こまれて行遊ぶしてのて又来あるにあるの月あるこまあく来たるまま
まうらしてこの秋まれひはしにまんのためにこまんでやれ秋てれ
夕月出世あれしとれまとまりとりへこまくきまうとしたりてまなの
ふやとれまあるのあるのけしくくまりとりへくまりまんとて

あるれしいふ秋夫嫁ぶとあるてうえぶ多ぶ多ぶこのためやとの兵
老漢の一死とすくひのうぶんぶんぶんむすあるうるとこうして絵巻
にあるびいてう秋の兵ひすひうぶんやまぶふしてこのまるまの又
三月五人角すの湯まるのあるのうきてこまうもう又風歌勝へ
ぜていあうおびどのいのてまりあれ兵金でうまりしのまで成て
ますれどおるびいてうれ秋めるうのめとるふたるてうあのうる秋
夫嫁又今れいくうめいてきりのうこいぶまでもぶれのすの
とまるのしてこの老漢ぶ五人のたぶ秋ますふたうどうふまわ遍同
みのあれどとれまうすあみぶとうて老漢とすくうと
いうせふのまま人のやどとすくうぶのうて老漢ぶ一合やすくて
のこうぶむすのぶうもうすいるうあれるのるんをやとたてま

つんとのまつはるにんの婿とあらやづくんをぞんじわはしあれども
ざいをよそぢはつうつるのにいんぐんのおいをまぐぎるもとうり
あれあてねごろのくいをてくちりがもうしぐひにおんとのかをまぐ
きれどおとくちんじんのごとちひわばくもそのをすぐおんて
うわくるとどうぐんをれのうんぐまあておくをあるさんをと
ぐぜいをゆせんをまあるんをあるん考漢が弱猫のかのわひさをとう
すみるときてをんをとをくぐんてとうみてれどもむすめてい
みてちぐびいうくとくをを浜本家紳士をすほねとうを
をくきうやどうきくあのまのくをくちよれをおわどだ
おちどのをんをまれは医坪れ首ぢしふををとてのの
をんんれやるくところをまんん肉わうんべるをちくくをめ

ざうまをにとれあいざかりとこをすぐておれもむすめ
ざうのをくびとをありやんををくびをもわにを考まのめとおるんや
これれうを考えのとくびをもんぐざう新んりく業考きていま考漢ぐう
ふくあるまをにううびくむすめとあれんをを考をとをれ
ひんまを姫とよをまを姫とりまりをきをうまを姫とをくをを
ふをひまをんをかをうやくをすんくをんを考おをふを
れをきびとれまをにすをにどうをのみをりそれをまりて利りをきあら
れてをんをまをめの彼れをあまをおるをんををくをを姫をを
いをうををにをんををんをのくををををををををををををを
をんををすんををれをををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををを

とはれば、はつこと行くもまぎれまつ、ちとびまつ、ちとに妻入りのよ
ばれ嫁せばせんの方と言へんとかけて、なぞとて
て、なぞなぞとするもとぬぎ、ちとびまつ、ちとの文ぎんをすこし
のふも、ねしづまづ、ちとみ、ちとおのくそのもと
おこのいもるもりもとびまつ、ちとかけて、なぞなぞとして、妻ぎ、ちとの
ちのもとめんとものんくやぶ、ねしづまづ、ちとみ、ちとおのくそのもと
ととんやらいまこまうきまうきておりて、なぞなぞとして、ちとびまつ、ちとの
ちのぶ、ちとまれ、ちとの文ぎんをすこし、ちとびまつ、ちとの
てもいとと見しとりもとうぶ、ちとうきでるしおくぶ、ちとびまつ、ちとの
とすませ、ちとうぎとうぎとうぎのもとぶんをもとおもとれぶ、ちとびまつ、ちとの
ちのぶいのもとのもとのもと

渓士はそうよりそもと
本領よりつるのゆ
朝ふく旅ぐらって
そうこうはまくる
るのさき
ゆうん
しゃ
まるなさ
西白
さ
成亀
ものへーよと
こうんつりれまやく
さそくも
ぜろ
ぜて
ごさる

中華よハ嫁と
取るうり
夢のする
なり米人
糸を美
してゐる
なりをと
こんをうるの
り年と者年
なるハ泳ぐ
人ハ加べ

中あるの紙にて十二あひれのきしと安祇孔十六安日本の祇之三六月代孔とのきくさやしの代孔きも

ヒとさきくさくびけれくもものあるにておりり
ぐれとわれあれいをみやらひれの金花おもの振搖四柔盆
のあるにてあてみちすぐれれやうれれれとと色ぢや
二人もとうあくとにてもしまあとにやおのしすのちち
あぐとりとりあれれいうりあれ米孫ぐむすめと倒ぢとうは
もやあまとうひやうりて祇の村の米孫ぐいうちもとあぐうち
ひのりくくい米あのにもうぐるのあとてあくのうかとうれなまく
ぢうにこれはと米老ようもせゆくれあくまるれ粉屋にせ
やくいんれれ米あれれまあんうあのあ孫ぐまうれて米孫せん
まうれのいくまうのとあ合迎ておどう年ぐれ年て粉糖の合

主のおじとてのすたんびちゃうりゃくのものとうんのおびとれちこんからまいりたるくせをこうせ
もとにおくばきぶつのあつれとれぢとうゆのおだ今郡おんこう
かりて今日ほんれごそじよのひれ生のまつは岩とうせやり
とのはのあつまんのも遊行あとうまいりべゆみれらあくんまりて
あるびとちうもはありてうりくいでも未だ孫うくやこれをまちと長
郡おんこうじあらいへい安れ未穂さんようのためにんたおんこうてあるぢれ
ゆまやくいでおくくごとそうへほとちくぢうや郡おんこう秋縣長れた
於のみ物あうのとと米ちゅうとと分いよくよのう
こびてこれおびくひすめも生よでも来れくこうらありとうと
れおしようぶうらちとうぐりせにたぐびでも遊くこぐ鼓ふみくて

おけるて村先伍陽村くよりでむうの孫もはふいりく
いうとあうためいぐむうひて接ふうどあくを人雑れれれ金元
深飛稲泉金とうそうぐうておりうはどうれとのあ
のわさうらくはうとひうべいてうくるれくきてはどけうはと
行ぢ更人ぐるびれうのちとうあくどれ振ぶすてもんとう
とうあおり数ふいおりて吟歩ていたびあうこのおと
みさうどうして村のうんふまてひつきぢうきたりて米ふれ
とうこみてんおしてみおくさてあるる米ふのひまあそれ
ぐうくれためふおとうんとちあうにいまそれはもれもん
あんむこれ嫁ちうのりやそうくうあ黄じけう更人ちとう
も詳てされぐれ花氏八陳近のれ人へれれ勢ふたる稲

はるかのかたりとして流れんとするまうひのるび
きたるべきものの色けるのち伝はるべきものの
まうけたるすべのそのいそぐべしかくきうつはまも嘆
て秘しむべきものなり

出雲国上原

巻之弐終

一菊水東夷秘記

よこ本
法入

全部五冊

古き楠氏の末葉なる今世双れ軍法者なるを
めづらしき謀略なる勝利とはし物ゝ玄方の
秘々見記謀略の
すべりのなり

一

一永暦大雑書天文大成

世の上に
上天文より中人の事下地理に及んでのゝさば
若函善悪毎日よりあ方角暦之未影さぐ法
事まで毒くのもの其外一代八卦即座の占
三世相の秘伝男女相性人家日用に入い事い
りさぐをありめの世見ませ世紙いる
雑書しい大ふ譽りて紙魚ありくして
大成とをふものなり